

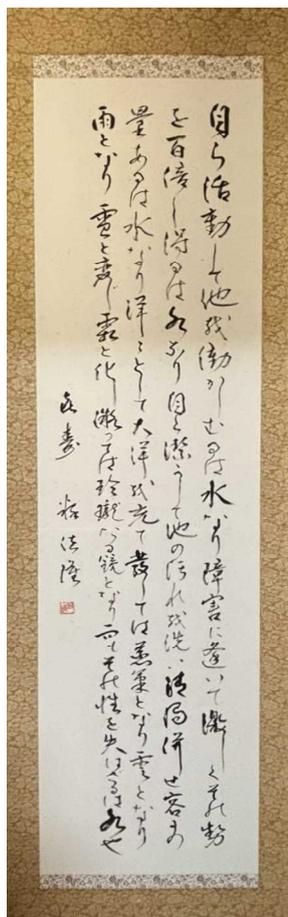


# “源溪山だより”

<https://chouanji.p-kit.com/> 令和7年7月②  
住職 恩田仁志 gen-chouanji@aka2.gmobbb.jp



## ◆水



左の写真は、お勤めにうかがったお宅の床の間にかかっていた掛け軸です。さらさらと達筆で書かれている文は「水五訓」といわれるものです。軸中の文をわかりやすく番号を振って紹介します。

- ① 自ら活動して他を動かしむるは水なり
- ② 障害にあい激しくその勢力を百倍し得るは水なり
- ③ 常に己の進路を求めて止まざるは水なり
- ④ 自ら潔うして他の汚れを洗い清濁併せ容るるは水なり
- ⑤ 洋々として大洋を充たし発しては蒸気となり雲となり雨となり雪と変じ霰<sup>あられ</sup>と化し凝<sup>ぎょう</sup>しては玲瓏<sup>れいろう</sup>たる鏡となりたえるもその性を失はざるは水なり

この文章は会社を育てる企業訓として使われたり、子どもへの講話として引用されたりすることもあります。よく使われる意味は次の通りです。

- ① 自分から行動し、他人を動かす力を持つことが大切である。
- ② 障害に直面しても、その力を増幅させることができる。
- ③ 常に自分の進むべき道を探し続けることが大切である。
- ④ 自他の不純さや混じり合うものを受け入れ、調和を保つことが大切である。
- ⑤ 環境に応じて柔軟に対応し、変化し続けることが大切である。

水五訓は、戦国時代の軍師として有名な黒田官兵衛の言葉といわれています。岡田准一が主役を務めたNHK 大河ドラマ「軍師官兵衛」はまだ記憶にあるのではないのでしょうか。織田信長にも徳川家康にもその力を注いでいますが、何と云っても豊臣秀吉の知恵袋としての活躍が記録に残っています。

官兵衛は晩年出家後に如水という号を名乗っています。黒田官兵衛<sup>イコール</sup> = 黒田如水です。古代中国の哲学者である老子の言葉に「上善如水」があり、この如水が黒田如水という号と通じているそうです。

この言葉は「上<sup>じょう</sup>善<sup>ぜん</sup>は水の如し」と読み下します。人として善く生きるために規範とするべきものは水である。水の柔軟性、謙虚さ、またエネルギーを秘めていることなどを示しているそうです。

水は無色、無味無臭、無形。それだからこそ、様々な色にも味にも形にもなると言う「無であるからこそ全である」という特性を持っています。これは「空即是色」につながります。

今月の塔婆裏文は、この「上善如水」としました。

